NEWS　RELEASE

挑戦の先に、新しい道がある。
広島修道大学
Hiroshima Shudo University

2026年　11月　11日

フィリピン国交正常化70周年・広島とセブの若者がアートでつなぐ未来
第3回 セブ島貧困救済プロジェクト企画展
「光をすくう 形をさぐる 広島の私とセブのあなた」開催

広島修道大学（広島市安佐南区）では、2026年11月23日(月)から12月4日(金)まで、学生主体のセブ島貧困救済プロジェクトの成果発表として、第3回企画展「光をすくう 形をさぐる 広島の私とセブのあなた」を本学図書館にて開催いたします。本展では、日本とフィリピンの国交正常化70周年の節目に、現地で撮影されたセブ島貧困地区のリアルな現状を伝える写真に加え、広島とセブの若者が共同制作した美術作品を展示します。

2026年8月、本学人文学部の学生7名がフィリピン・セブ島を訪問。現地の国際ボランティア団体「DAREDEMO HERO」の協力のもと、支援活動や貧困問題への理解を深めました。戦後・被爆80周年の翌年であり、日比国交正常化70周年の節目にあたる今年、広島とセブの学生がバディを組み、歴史的史跡や博物館の訪問を通じて「戦争と平和」の歴史を共有しました。

さらに現地活動の一環として、現地の中学生・高校生とともにアートワークショップを実施。制作した作品を日本の大学で展示・発信することで、現地の中高生が表現者としての自覚と尊厳を育む場を創出します。また、観光地セブの陰に隠れた貧困地区の過酷な現実を可視化する写真も併せて公開します。

展示構成は、画家としても活躍する沼本秀昭教授（人文学部教育学科）がプロデュース。図書館のオープンスペースを活用したインスタレーションを展開します。また、第12回ヒロシマ賞の開催年にあわせ、事前学習として広島市現代美術館学芸員の笹野摩耶氏による特別講義を実施した他、渡航後にはヒロシマ賞メル・チン展を観賞。市民参加型現代美術の手法を学び、社会課題とアートを結びつける試みとして本展を企画しました。

会期中には、渡航したプロジェクトメンバー（学生）自身が展示物や現地での体験、作品の意図を直接解説するガイドツアー（メディア取材・見学可）も開催いたします。

詳細は以下の通りです。

記

■ 展覧会名：第3回セブ島貧困救済プロジェクト企画展
「光をすくう 形をさぐる 広島の私とセブのあなた」
■ 会期：2026年11月23日（月）～12月4日（金）
■ 開館時間：8:45～20:30 / 大学図書館の開館時間に準ずる
■ ガイドツアー日時：11月23日(月)・24日(火)・30日(月)・12月1日(火)
各日11:00 / 12:30 / 13:30
■ 会場：広島修道大学 図書館M2階 展示ギャラリー（広島市安佐南区大塚東1-1-1）
■ 入場料：無料（一般来場・取材可）





（↑昨年度の関連イベントの様子）

【本件に関するお問い合せ】
広島修道大学学長室総合企画課　河野・堀田
Tel：082-830-1102　　Fax：082-830-1324
公式サイト：https://www.shudo-u.ac.jp/　Eメール：kouhou@js.shudo-u.ac.jp
プレスリリース一覧≪公式サイト⇒報道関係の方≫　　プレスリリース一覧

枚数：本紙を含め　3枚



第3回セブ島貧困救済プロジェクト企画展

光をすくう形をさぐる

広島の私とセブのあなた

第3回 セブ島貧困救済プロジェクト企画展

2026年 11月23日(月)〜12月4日(金)

広島修道大学 図書館 M2階 展示ギャラリー

ガイドツアー

11月23日(月)・24日(火)・30日(月)・12月1日(火)

各日 11:00 / 12:30 / 13:30

2026年は日本とフィリピンの国交正常化70周年にあたります。同年8月、広島修道大学人文学部の学生7名がセブ島を訪問し、国際ボランティア団体「DAREDEMO HERO」とともに支援活動に取り組みました。その活動の一環として、現地の中高生と美術作品を共同制作し、成果物を広島に持ち帰りました。本展では、この成果物を中心に、セブ島貧困地区の現状を7つの視点から紹介するとともに、現地でのインタビューで得た人々の言葉を交えた作品や写真を展示、図書館のオープンスペースを生かしたインスタレーションを展開します。

主催：広島修道大学人文学部セブ島貧困救済プロジェクト
協力：NPO法人DAREDEMO HERO
お問合せ：広島修道大学人文学部（担当：石塚）
Eメール：hishizuk@shudo-u.ac.jp

広島修道大学